

3年 データ分析

学習目標

本校のデータ分析科の目標・・・「情報社会での基盤形成 統計の理解と活用」

I 情報モラル…SNS等の利用の注意点や著作権について、事例をもとに考察し、自身の行動につなげることができる。【**学びに向かう態度・人間性**】

II プログラミング…プログラミングの基本的な仕組みについて理解し、実践できる。【**知識・技能**】

III ソフトウェアの活用…表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを活用して、データを適切な方法で表現し、伝達することができる。【**知識・技能**】【**思考・判断・表現**】

IV 数学の知識…標準偏差・分散・相関係数などの統計の基礎を理解し、算出できる。【**知識・技能**】

V データの分析力…既存のデータおよび自身で取得したデータを図表化し、現象を考察できる。

【**思考・判断・表現**】

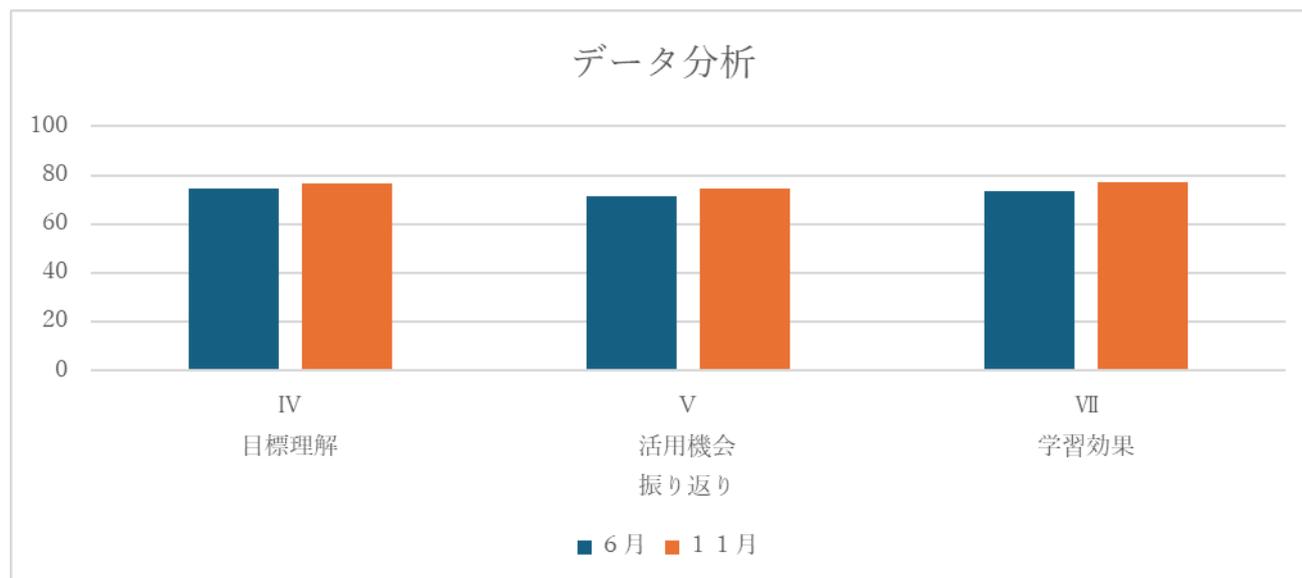
VI 学習内容の活用…学んだことをFW活動などで活用する姿勢を持つ。【**学びに向かう態度・人間性**】

学習内容

	育成する資質・能力 (何ができるようになるか)	学習内容／教材 (何を学ぶか)	特記事項・他
1 学 期	<p>【知識・技能】 表計算ソフトを使用できる。III 標準偏差や分散など統計の基礎を理解し、算出できる。IV</p> <p>【学びに向かう力・人間性】 情報モラルに関する学習を、自身の行動につなげられる。I</p>	<p>◎情報の基礎 (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決 ・情報モラル (SNS) (オ) ・情報ネットワーク <p>◎データ分析の基礎 (8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分散, 標準偏差, 相関(オ) ・表計算ソフト 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の選択と発信 (文化・する) ・選手のデータと選択 (スポーツ・する)
2 学 期	<p>【知識・技能】 プログラミングを理解する。II 表計算ソフトを使用できる。III</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 目的意識を持って、プログラミングを 実践し、データを取得できる。II 既存のデータおよび自身で取得したデ ータを図表化し、考察できる。V</p> <p>【学びに向かう力・人間性】 協働して課題を解決できる。相互に建 設的な助言ができる。I～VI</p>	<p>◎情報の基礎 (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ ・情報モラル (セキュリティ) ・プログラミング ・センサーの活用 <p>◎データの処理と表現 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト ・変数の変換と偏差値 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や行動の予測 (スポーツ・学ぶ)
3 学 期	<p>【知識・技能】 仮説検定の考え方を把握する。IV 公的データを取得できる。V</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 データを適切な方法で表現し、伝達す ることができる。III 既存のデータおよび自身で取得したデ ータを図表化し、考察できる。V</p> <p>【学びに向かう力・人間性】 学んだことを積極的に活用する姿勢 を持てる。III・VI</p>	<p>◎情報の基礎 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル (著作権・引用) <p>◎データの収集と分析 (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的なデータの活用 ・プレゼンテーションソフト ・仮説検定の考え方 ・区間推定の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・選手のデータと選択 (スポーツ・する) ・オリジナル教材を扱う ・各種検定や共通テストを取り扱う

生徒による授業評価

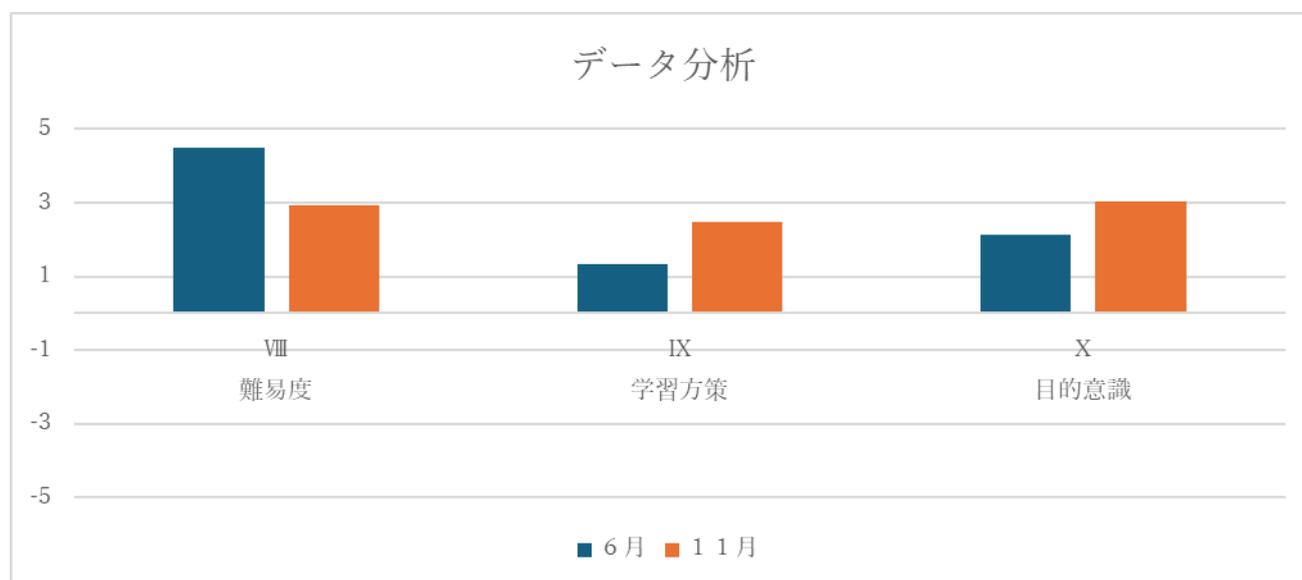
6月と11月に実施した生徒による授業評価の結果は以下の通りである。学習意義をよく理解し、学習効果も感じている。



※目標理解は「学習目標や授業への取り組み方ははっきり示されているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※活用機会は「習ったことをもとに考える機会が、課題などで整っているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習効果は「授業を通し、学力や技能の向上、自分の進歩が実感できるか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。



※難易度は「授業内容や課題の難易度はあなたにとって」という質問に対して「難しすぎる（10ポイント）」から「易しすぎる（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習方策は「この科目の学び方や取り組み方が身についたと思うか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※目的意識は「自分なりの課題や目的を持って日々の授業に臨んでいるか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

5年 地球探究

学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、現代世界の諸地域を歴史的背景も踏まえて地誌的に考察することによって、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。

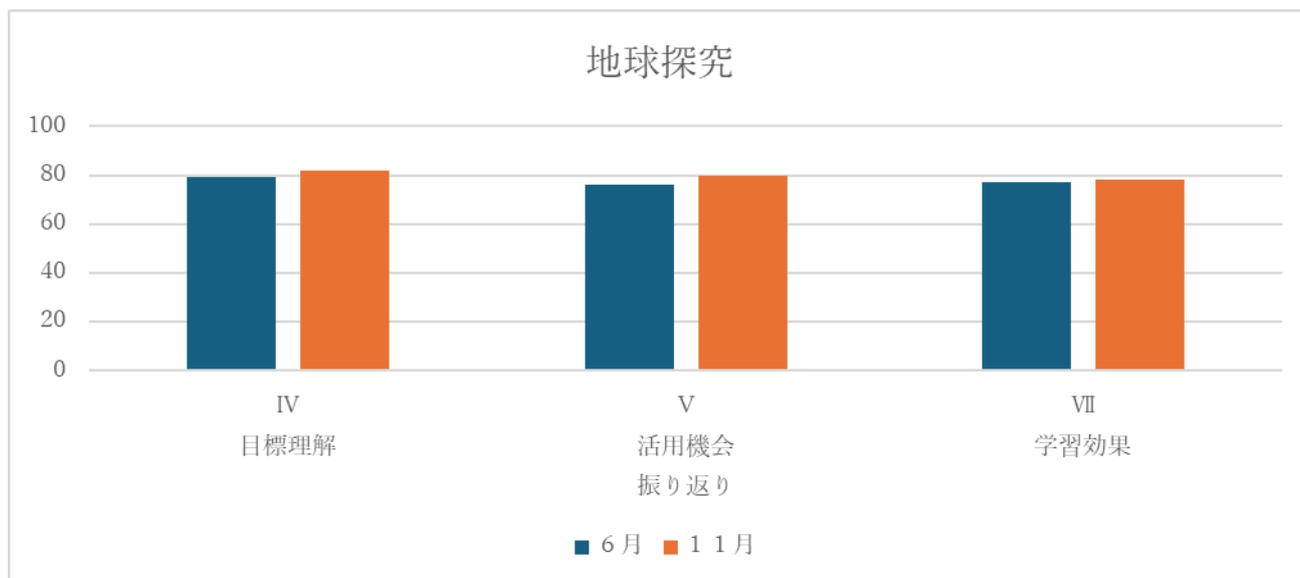
人間が、過去に行ってきたこと、現在行っていることと自然環境とのかかわりについて探究する姿勢を身につける。

学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項・他
1 学 期	<ul style="list-style-type: none">規模や形成要因の違う様々な地形を取り上げて、その分布や形成要因などの基礎的知識や概念を習得する。気温、降水量、大気大循環、海洋や水の循環を取り上げ、それぞれの地域の気候がかたちづくられた要因を考察し、理解する。地形や気候と密接な関連を持つ第一次産業について学習し、人間の活動に自然環境がどのような影響を及ぼしているかを理解する。地球上の位置と国家について学び、グローバル化が進んでいることを理解する。期末考査後に、調べ学習のテーマを各自（二人一組）で設定する。	《学習内容》 <ul style="list-style-type: none">自然環境第一次産業地球上の位置国家とグローバル化 《教材》 <ul style="list-style-type: none">プリント資料集 <ul style="list-style-type: none">プレートテクトニクスや大気の大循環については、地学の内容を採り入れて学習する。どうやったら2点間の距離を求めることができるか、経度から時差を求めるにはどうしたらよいか、を学習する。	
2 学 期	<ul style="list-style-type: none">諸地域の生活文化や地球的課題について、最低限必要な知識を習得し、資料集にも載っていない最新の情報にも、さまざまな媒体を介して接しようとする態度を身につける。自分の考えをまとめ、わかりやすく発表するために、機材を使用したプレゼンテーションの技法を学ぶ。	《学習内容》 <ul style="list-style-type: none">世界の諸地域の生活文化複雑にからみ合う地球的課題 《教材》 <ul style="list-style-type: none">プリント資料集 <ul style="list-style-type: none">2学期は二人一組の発表形式の授業を20時間組み込むことを考えており、最低限身につけてもらいたい知識に関しては講義形式の学習で扱った。	
3 学 期	<ul style="list-style-type: none">毎年自然災害による被害が発生している日本の防災について学び、どうやって自分の身を守るか考える姿勢を身につける。さまざまな時代の世界地図の読図により地球に関する認識の違いに気づき、人々の世界観の変化を理解する。使用目的に応じて図法の異なる世界地図を使うことを理解する。地図を用いた地域調査の技法について学ぶ。	《学習内容》 <ul style="list-style-type: none">日本の自然環境と防災地理情報と地図地図と地域調査 《教材》 <ul style="list-style-type: none">プリント資料集 <ul style="list-style-type: none">GIS(地理情報システム)を利用してデータを地図上に表示する技術について学習した。	<ul style="list-style-type: none">1月17日、3月11日と大きな震災を引き起こした地震が起きた日が含まれる期間であり、マスコミでも防災について取り上げられることが多くなる。その内容も授業に採り入れた。前期課程の地域調査で使用した地図や発表に使用した地図を持っている生徒がいる場合には、その地図を持ってきてもらい、どういう目的で使用したのかを確認した。

生徒による授業評価

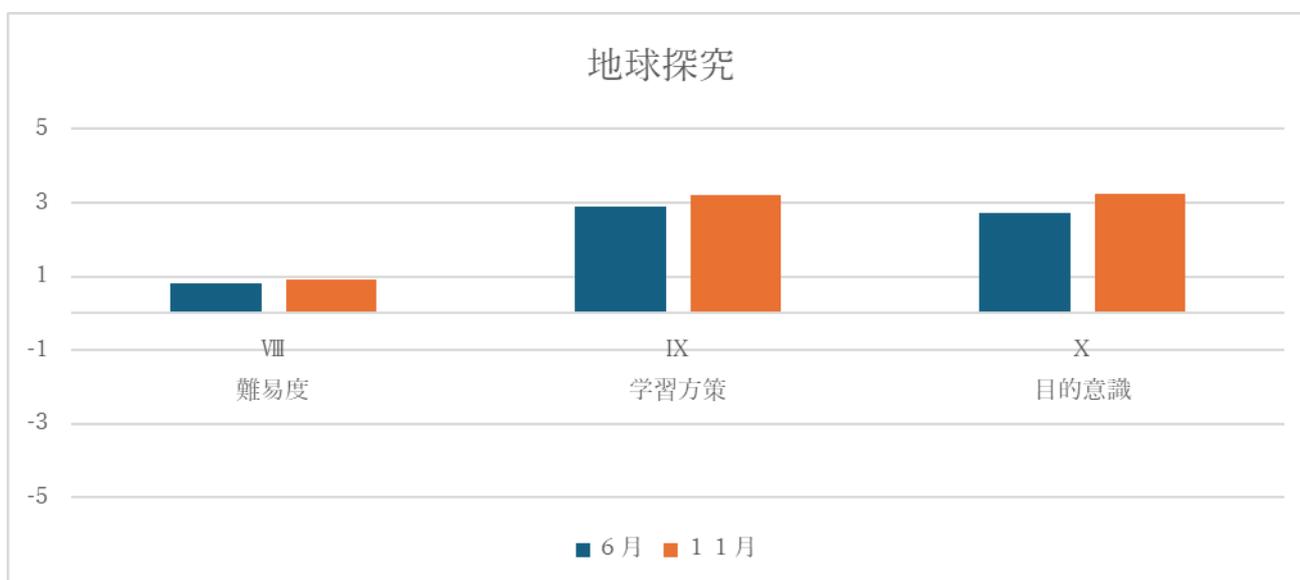
6月と11月に実施した生徒による授業評価の結果は以下の通りである。授業を通して、身の回りの事柄についての学び方、探究の仕方について身についたと感じている生徒が多いことがわかる。



※目標理解は「学習目標や授業への取り組み方ははっきり示されているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※活用機会は「習ったことをもとに考える機会が、課題などで整っているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習効果は「授業を通し、学力や技能の向上、自分の進歩が実感できるか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。



※難易度は「授業内容や課題の難易度はあなたにとって」という質問に対して「難しすぎる（10ポイント）」から「易しすぎる（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習方策は「この科目の学び方や取り組み方が身についたと思うか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※目的意識は「自分なりの課題や目的を持って日々の授業に臨んでいるか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

5年 MIE (Mathematics In English)

学習目標

英語で書かれた文章や数学用語に親しむ。

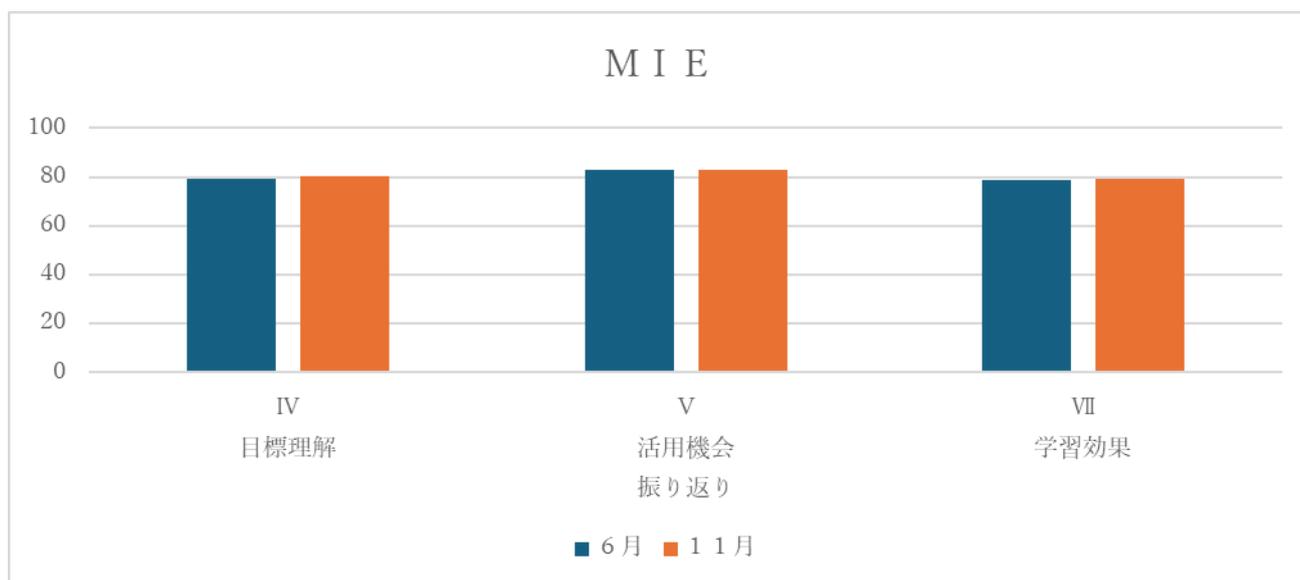
英語で書かれた数学の問題を自分自身で読み取り、解けるようになる。

学習内容

	Concrete learning reaching objective	Learning contents
1st	英語で書かれた基本的な数学表現を学び、標準的な問題を読み取り、解けるようになる。	基本的な数学用語 代数
2nd	一学期に学んだことを利用し、高校段階の数学（統計・集合・確率）の問題を解いたり、解法を英語で説明したりできるようになる。	集合 確率 統計
3rd	数学の問題の解法や証明を英語で発表できるようになる。	英語で発表

生徒による授業評価

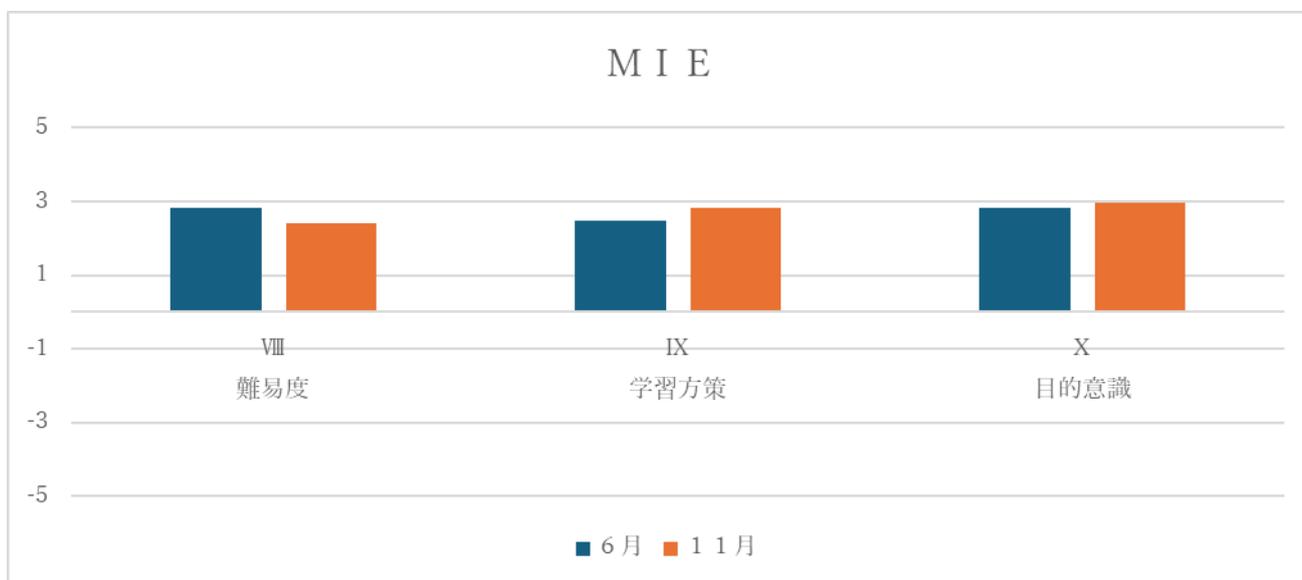
6月と11月に実施した生徒による授業評価の結果は以下の通りである。6月と11月の難易度についての回答を比較すると、1学期は難易度が高い感じていた生徒も、MIEの授業を受けていくにつれて、当初感じていた難しさを克服している様子が見られる。また、それらとともに学び方や取り組み方が身についたと感じている生徒が増えていることがわかる。



※目標理解は「学習目標や授業への取り組み方ははっきり示されているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※活用機会は「習ったことをもとに考える機会が、課題などで整っているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習効果は「授業を通し、学力や技能の向上、自分の進歩が実感できるか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。



※難易度は「授業内容や課題の難易度はあなたにとって」という質問に対して「難しすぎる（10ポイント）」から「易しすぎる（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習方策は「この科目の学び方や取り組み方が身についたと思うか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※目的意識は「自分なりの課題や目的を持って日々の授業に臨んでいるか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

6年 Pensées

学習目標

習得してきた知識を統合しながら、考える力を鍛え、自律的かつ批判的に考え行動できる

イノベティブなグローバルリーダーとなる準備をする

第6学年の目標

- ① 正解のない与えられた課題に対する答えを導き出すために思考し、討論することで自己の思考力を鍛え創造力を育成する。
- ② 他者と議論し、答えを作成することで協働力、協働的想像力を育成する。
- ③ 社会に存在する課題についての理解を深める。

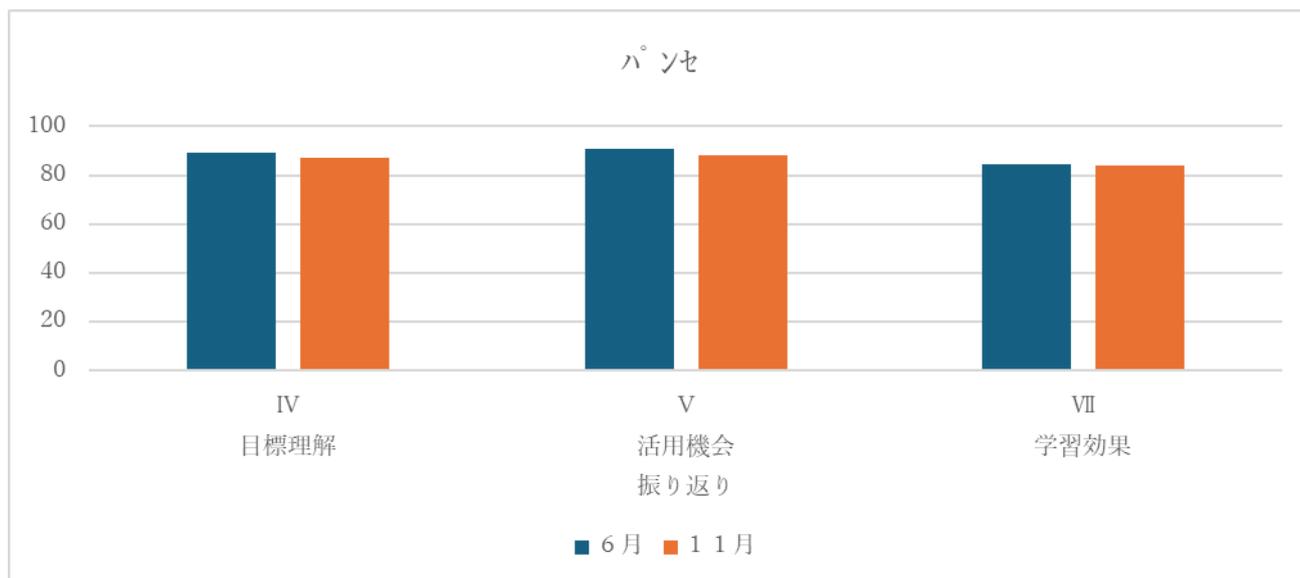
学習内容

●年間授業テーマ

番号	テーマ	内容
1	生命倫理	出生前診断の可否
2	生命倫理	代理母出産は許されるか
3	生命倫理	脳死と臓器移植
4	生命倫理	安楽死と尊厳死
5	生命倫理	動物実験について
6	生命倫理	クローン技術と倫理
7	生命倫理	遺伝子組み換えの是非
8	生命倫理	再生医療の限界
9	社会	自由とその限界
10	社会	平等について
11	社会	公正と正義
12	社会	女性の権利
13	政治	投票は義務か
14	政治	権力の正統性
15	政治	議会制民主主義の限界
16	政治	立憲主義とは
17	政治	法律と道徳
18	政治	福祉国家とその限界
19	グローバル	独裁と民主主義
20	グローバル	多文化主義と異文化理解①
21	グローバル	多文化主義と異文化理解②
22	グローバル	ナショナリズムについて
23	グローバル	自由経済とその限界
24	グローバル	SDGs解決に向けて

生徒による授業評価

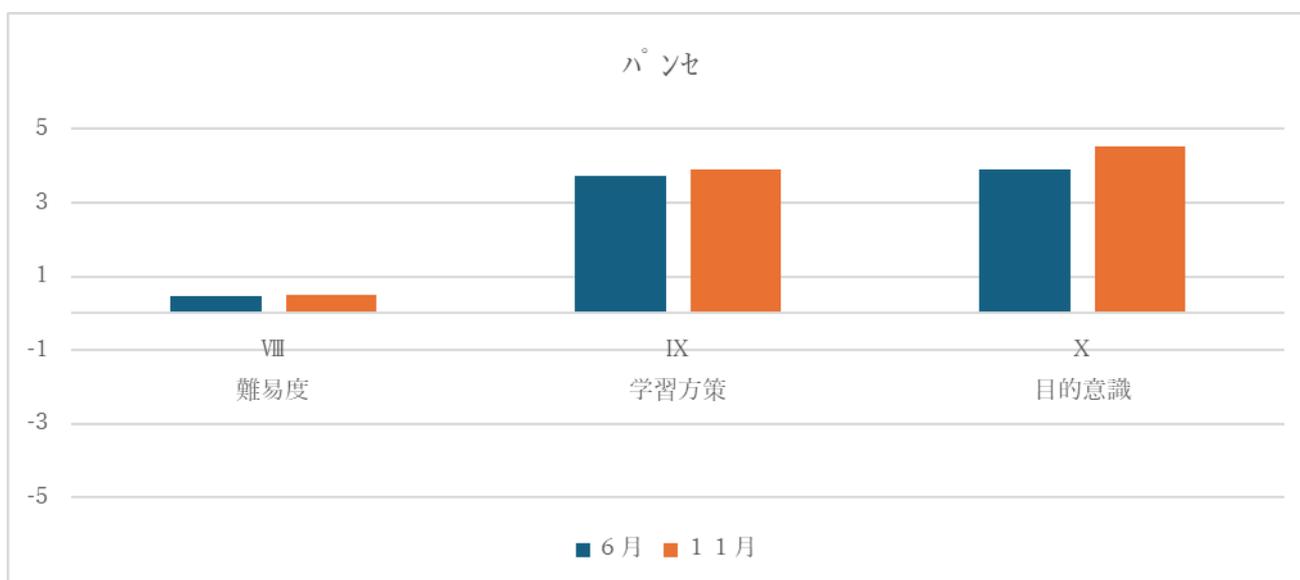
6月と11月に実施した生徒による授業評価の結果は以下の通り。6月と11月の結果から、本科目の学び方や目的について十分理解し、取り組めるようになっていくことがわかる。



※目標理解は「学習目標や授業への取り組み方ははっきり示されているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※活用機会は「習ったことをもとに考える機会が、課題などで整っているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習効果は「授業を通し、学力や技能の向上、自分の進歩が実感できるか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。



※難易度は「授業内容や課題の難易度はあなたにとって」という質問に対して「難しすぎる（10ポイント）」から「易しすぎる（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習方策は「この科目の学び方や取り組み方が身についたと思うか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※目的意識は「自分なりの課題や目的を持って日々の授業に臨んでいるか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。